

特 集

イーサネットLANの高速化と 多様化による今後の発展への期待

執行役員
通信・産業デバイスセグメント長
富士電線株式会社 代表取締役社長

兒玉 喜直



ブロードバンド（高速・大容量通信）インターネットは、平成13年版情報通信白書において「ブロードバンド元年」と位置付けられて以降、DSL（Digital Subscriber Line）やケーブルインターネットにより急速に普及し、その後ブロードバンドの主流がFTTH（Fiber To The Home）へ移行することにより、更に高速化・大容量化しています。また、IoT（Internet of Things）の推進、5Gのエリア拡大、Wi-Fi6の普及等、今後もネットワーク通信トラフィック量の増加が見込まれており、更に高速通信が可能な新たな伝送方式が次々と開発されています。

これらのネットワークで使用する有線LANを用いた伝送方式は「イーサネット」と呼ばれ、主に商用ビル（オフィスビル）やデータセンターでの高速・大容量通信に使用されてきましたが、現在では、ネットワークの高速化・共通化志向の高まりにより、FA分野での産業用ネットワークや自動車に搭載される通信機器ネットワークにも用途を広げており、今後もイーサネットの用途は拡大していくものと思われます。

今後の更なる高速・大容量化に対応するためには、新たなネットワークの構築が必要です。そのネットワーク構成要素の一つであるケーブルも重要な役割を担っており、高速化要求に対応すべく進化していく必要があります。

昭和電線グループでは、ネットワークの発展と共に高まるお客様のニーズに対応すべく、LAN用ツイストペアケーブルや光ファイバケーブルの研究・開発に継続して取り組んでまいりました。今後は、これまで事業展開してきたオフィスネットワークのみならず、今後の市場拡大が予想されるFA分野での産業用ネットワークやデータセンター（DC）配線、車載用高速伝送等の新市場へと事業を進展させ、変化が激しい情報通信の世界で、コミュニケーションの新たな価値創出に挑んでまいります。尚、当社グループではこの新たな挑戦に向けて、新ブランド（FLANTEC®（フランテック））戦略導入により、グループ総力を挙げた新たな市場への拡販を加速させ、事業拡大を目指しております（図1、図2）。

本特集号では、多様化するイーサネット市場の動向や、製品開発の取り組みの一端をご紹介させていただきます。ご高覧の上、ご意見、ご批評など賜れば幸甚に存じます。



『FLANTEC®』とは、
“F（First, Fast, Future, Fuji）” + “LAN” + “TEChnology”
を組み合わせたものです。
「昭和電線グループの、高速で、
未来に向けた No.1 LAN ケーブル技術」を意味しています。

図1 新ブランド FLANTEC®（フランテック）コンセプト

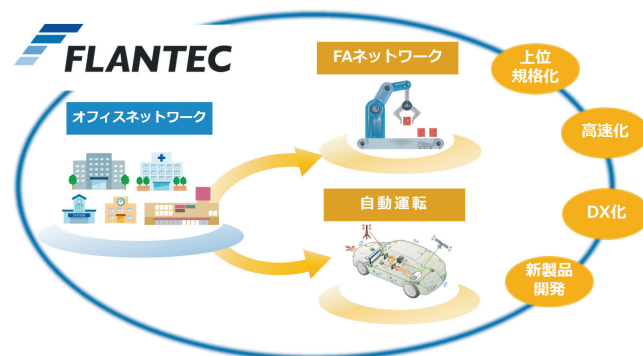


図2 新たな市場への事業拡大イメージ図